

令和4年度事業報告書

1 統計情報の利活用技術に関する調査・研究等に関する事業

(自主研究)

(1) 地域メッシュ統計を利用した研究

国勢調査の地域メッシュ統計を使用した地域分析手法（集計項目の 2015 年、2020 年比較等の地図化、年齢構造のバイアスを除去した小地域の出生指標の分布）の研究を行い、出生力と産業別就業者との相関分析に関する地域分析を行った。

(2) Sinfonica 研究叢書「公的統計のミクロデータ利用ガイド」の改訂

2015 年刊行の Sinfonica 研究叢書「公的統計のミクロデータ利用ガイド」の改訂として、「使ってみよう！ミクロデータ　社会生活基本調査の匿名データを用いた分析を例として」を刊行した。

(3) 統計 GIS ソフトウェア「G-Census」の改修とデータ更新

G-Census は、統計データ及び境界データが時空間管理できる統計 GIS ソフトウェアで、当財団で毎年度開催している G-Census プレゼンテーション資料作成コンテストの応募者に利用されている。現在の GIS で必要な Shape エクスポート機能を追加とともに、行政界データ、統計データを国勢調査の最新年である 2020 年まで更新した。

(文部科学省科学研究費研究)

(4) 文部科学省科学研究費による研究

ア 当財団の研究者が研究代表者となっている研究課題

① 公的統計の精度評価と新たな提供方法に関する研究

美添科研（基盤研究（B）、平成 30 年度～令和 4 年度）

② 公益法人、社会福祉法人及び学校法人を巡る改革の定量的評価についての研究

金子科研（基礎研究（C）、平成 29 年度～令和 4 年度）

③ 多様な公演分野別集計を可能にする日本の商業演劇公演データベースの整備

坂部科研（基盤研究（C）、平成 29 年度～令和 5 年度）

本研究については、新型コロナウイルスの影響等により、研究期間が再延長され、令和 5 年度までとなった。

イ 当財団の研究者が研究分担者（研究代表者は他機関）となっている研究課題

① 公的統計ミクロデータを活用した EBPM 支援研究プラットフォームの構築

統計数理研究所・椿科研（基盤研究（A）、令和 3 年度～7 年度）

② ヨーロッパ音楽劇上演の変遷と伝播：言語と地域の横断的研究

神戸大学・岡本科研（基礎研究（C）、令和元年度～5 年度）

なお、本研究については、研究期間が再延長され、令和 5 年度までとなった。

③ 外国人労働力を考慮した雇用創出と労働移動の計量経済分析

中央大学・伊藤科研（基盤研究（C）、令和3年度～5年度）

(受託研究)

(5) 令和5年土地基本調査に係る法人土地・建物基本調査の標本設計等業務

国土交通省からの受託業務で、令和5年に実施予定の法人土地・建物基本調査の実施に向けて、母集団整備手法、標本設計を検討し、調査対象者名簿を作成した。また、2022年土地保有・動態調査の調査対象者名簿及び集計表を作成した。

(6) 2019年国民生活基礎調査(標本調査)の匿名化分析のためのデータセット及び度数分布表作成等に関する委託業務

厚生労働省からの受託業務で、2019年国民生活基礎調査の匿名化基準、新規項目等の提供可能性等、匿名データ作成基準の検証を行うためのデータセット（SPSS）及び度数分布表を作成した。

(7) 賃金構造基本統計調査(平成29年、30年、令和元年)の匿名データ作成等業務

厚生労働省からの受託業務で、厚生労働省が一般への提供を予定している賃金構造基本統計調査(平成29年、30年、令和元年)の匿名データ案を作成した。

(研究発表)

(8) 学会等における研究発表

以下の各テーマについて、学会等において研究発表を行った。

ア. 経済統計学会 2022年（第66回）全国研究大会

- ・「関西国際空港と中部国際空港の立地がもたらした人口構造の変化—地域メッシュ統計による昼間人口及び昼夜間人口比率の分析—」；西内亜紀・新井郁子・草薙信照
- ・「訪問・通所介護施設における介護サービス受給者の地理的密度の地域差」；小西 純

イ. SASユーザー総会 2022

- ・国勢調査の匿名データを利用した「両親と成人で未婚の子から成る世帯」の子の実態分析；安井浩子

ウ. 官民オープンデータ利活用の動向及び人材育成の取組（2022年度）

- ・国勢調査の匿名データを利用した「両親と成人かつ未婚の子から成る世帯」の就業者と就業者以外における子の実態分析；安井浩子

エ. 2022年度統計関連学会連合大会

- ・「タイの高齢者世帯の消費状況—世帯主を中心とした世帯類型を基にして—」；米澤香・馬場康維
- ・「通所介護施設における介護従事者の需給比の社会経済要因に関する研究—埼玉県における事例ー」；小西 純
- ・実演芸術（演劇公演）の「実態把握」の現状—劇団公演の経年データ分析の序としてー；坂部裕美子

才. 2022 年度日本感性工学会感性商品研究部会第 74 回研究会

- ・花の命は結構長い—宝塚歌劇団員の現役活動期間に関する分析；坂部裕美子

カ. 2022 年度文化経済学会研究大会

- ・劇団公演の経年データ分析の試み；坂部裕美子

(その他)

(9) 研修講師等

- ・阪南大学の非常勤講師として、「ビジネスデータ分析 1, 2」を担当した。
- ・立教大学経済学部の講師として、「政策情報処理 A・B」を担当した。
- ・総務省統計研究研修所「GIS による統計活用」の研修を担当した。
- ・地方公共団体等が開催する統計に関する研修の講師を担当した。

(10) 統計情報の多角的利用のためのコンサルティング及び加工等事業

統計データを加工・編成し提供した。令和 4 年度のデータ提供実績は、合計 591 ファイルであった。このうち、地域メッシュ統計が 394 ファイル、国勢調査小地域統計(基本単位区別結果と町丁・字等結果)が 148 ファイルであった。

2 統計 GIS 活動奨励賞授与及び G-Census プレゼンテーション資料作成コンテスト事業等

(1) 2022 年度シンフォニカ統計 GIS 活動奨励賞

推薦のあった中から次の 2 組に授与した。

- ・王 淑慈（千葉大学環境リモートセンシング研究センター 特任助教）
『リモートセンシングと GIS を併用した地理空間データの作成と分析—衛星画像、小地域統計データ、ビッグデータのマッシュアップを通して—』
- ・長谷川 普一（新潟市都市政策部 GIS センター 主幹）
『行政における統計 GIS の利活用と普及活動』

(2) 2023 年度シンフォニカ統計 GIS 研究助成

申請のあった中から次の 2 組に決定した。

- ・楠瀬 慶太（高知工科大学 大学院博士後期課程 1 年／高知工科大学 地域連携機構・客員研究員）
『民間所在資料の継承・災害時救済支援データベースの構築』助成金 66 万円
- ・大沼 勇斗（筑波大学 理工情報生命学術院 生命地球科学研究群地球科学学位プログラム 博士前期課程 2 年）
『エスニック集団の空間的統合：汎エスニシティ化に着目したトランサンショナルな居住特性の解明』助成金 100 万円

(3) G-Census プレゼンテーション資料作成コンテスト

応募のあった中から次の 7 点を表彰した。

○最優秀賞

- ・「京都市高齢人口の分布と高齢者施設立地の関係性について」劉思銳（他 2 名）（立命館大学文学部）

○優秀賞

- ・「多文化共生社会に向けて～外国人にとって住みやすい街づくりとは～」佐藤竜介（他 2 名）（立教大学経済学部）
- ・「奨学金による地域教育格差の是正効果について－「教育格差の再生産」を防ぐために－」吉田翼（他 2 名）（立教大学経済学部）

○奨励賞

- ・「“Go To トラベル”事業による観光産業支援のための提案」山本周平（他 2 名）（大阪経済大学大学院経営情報研究科）
- ・「医療・福祉の東西格差問題と医師不足の改善案」宮内勇人（他 3 名）（立教大学経済学部）
- ・「環境に配慮した地域交通の在り方」高橋孝基（他 3 名）（福島大学人文社会学群経済経営学類）
- ・「アフターコロナのテレワークの継続に向けた提案」上田実穂（他 1 名）（大阪経済大学大学院経営情報研究科）

(4) gacco 「統計 GIS オンライン講座(基礎)」の開講

- ・講座開講： 株式会社ドコモ gacco
一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会(JM00C)
- ・開講期間：令和 5 年 1 月 31 日～令和 5 年 4 月 30 日
- ・受講登録者数 2,895

3 統計に関する知識の普及・啓発等に関する諸事業

- (1) 機関誌「ESTRELA」の刊行・配布（発行部数：月 890 部）
機関誌「ESTRELA」を毎月刊行・販売した。国公立図書館、大学図書館等には無料配布した。
- (2) PSI（ポケット統計情報）の刊行・配布（発行部数：3,000 部）
統計情報の利活用推進の一助として、「PSI2023（ポケット統計情報）」を作成し、無料配布した。
- (3) 統計実務基礎知識の刊行・販売（発行部数：2,000 部）
「統計実務基礎知識 一令和 5 年 3 月改訂一」を刊行・販売した。
- (4) 統計調査員のしおりの刊行・販売（発行部数：23,000 部）
「統計調査員のしおり 一令和 5 年 2 月改訂一」を刊行・販売した。

4 統計情報セミナー事業

統計普及啓発のためのセミナーを一般財団法人日本統計協会との共催で開催した。セミナーは、新型コロナウイルス感染防止のため、前年度に引き続き、WEB によるオンデマンド方式で下記のとおり開催した。

- 開催日時：令和 5 年 3 月 16 日～22 日
- 講演テーマ、講師

- ・住宅・土地統計調査から見る住環境の変化
　　山田 育穂 東京大学空間情報科学研究センター教授
- ・令和 5 年住宅・土地統計調査の実施に向けて～我が国の住生活状況を把握する
～
　　小松 聖(総務省統計局統計調査部国勢統計課長)

○ 参加申込者：405 名

5 全国統計大会及び統計グラフ全国コンクールに関する事業

(1) 全国統計大会の共催

第 70 回全国統計大会を、総務省と共催で、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた上で下記のとおり開催した。

- 開催日時：令和 4 年 12 月 7 日 14 時 30 分～15 時 45 分
- 開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟大ホール
- 行事：
 - 第 7 回地方公共団体における統計データ利活用表彰
 - 統計データ分析コンペディション受賞者表彰
 - 第 70 回統計グラフ全国コンクール入賞者表彰
 - 令和 4 年度「統計の日」標語入選者表彰
- その他：会場のホール入口に第 70 回統計グラフ全国コンクールの入選作品（58 作品）を展示

(2) 統計グラフ全国コンクールの開催

第 70 回統計グラフ全国コンクールを、都道府県統計主管課及び都道府県統計協会の協力を得て下記のとおり開催した。

- 後援：総務省、文部科学省、全国統計教育研究協議会、NHK、(一社)日本統計学会、(一社)日本品質管理学会
- 協賛：(公財)矢野恒太記念会、富士通株式会社
- 応募作品数：20,343 作品（全国）
- 審査会の開催：
 - ① 第一次審査……各都道府県
 - ② 第二次審査……統計部局職員
 - ③ 第三次審査……学識者、後援・協賛団体の代表
- 入賞作品の決定：特選、入選、佳作、奨励賞の 170 作品
- 特別賞の決定：総務大臣賞、文部科学大臣賞、日本統計学会会長賞、日本品質管理学会賞、金丸三郎賞、石橋信夫賞
- その他：特別賞受賞作品は第 70 回全国統計大会において表彰

6 統計調査総合補償事業

総務省統計局が実施する統計調査の円滑な実施を支援する観点から、統計調査員等の賠償事故の補償、災害事故の補償及び自動車事故対応諸費用給付金事業を行っている。

令和 4 年度は、自動車事故対応諸費用給付金事案が 4 件であった。

7 オンサイト環境整備助成事業

公的統計のミクロデータの利活用推進を図ることを目的として、令和 2 年度から、大学を対象に公募により必要な経費の助成を行っている。

令和 4 年度は、申請のあった慶應義塾大学(1 施設)、広島大学(2 施設)の 2 校 3 施設に対し選考の上、助成した。

8 公的統計活動支援奨励賞(石橋賞)授与事業

公的統計の作成及び利活用並びにこれに関する分野において顕著な貢献があった研究者を顕彰することを目的として、令和 2 年度から推薦を基にした選考・授与を開始した。

令和 4 年度は、青山学院大学：荒木万寿夫教授及び横浜市立大学：土屋隆裕教授の 2 氏に対し選考の上、授与した。

9 統計・データサイエンス力向上のための授業に係る優秀事例表彰事業

統計・データサイエンス力の向上を図る先導的で優秀な授業実践事例を表彰し、授業の展開・普及に資することを目的として、令和 4 年度から、公募により開始した。

第 1 回目となった令和 4 年度は、小学校部門で 7 点、中学校部門で 5 点、高等学校部門で 19 点の応募があり、優秀事例選考委員会による 1 次審査、2 次審査を経て、各部門から最優秀賞 1 点、優秀賞 2 点を選考の上、表彰した。

10 統計関連の学会等支援事業

(1) 統計関連学会への協力

日本統計学会、応用統計学会、日本計量生物学会、日本計算機統計学会及び日本分類学会の委託を受けて事務局事務を行った。

(2) 統計関連学会連合及び同大会の事務局事務

統計関連学会連合の委託を受けて会計事務を行った。また、2022 年度統計関連学会連合大会開催のための環境整備支援(寄附)を行った。

(3) 大内賞に対する助成及び事務局事務

大内賞を賛助するとともに、大内賞委員会の事務局事務を行った。

(4) 全国統計教育研究協議会の事務局事務

全国統計教育研究協議会の運営に係る事務局事務を行った。

11 開発途上国等への統計技術支援及び国際協力に関する事業

○ アフリカ諸国統計職員招聘事業（金丸三郎記念国際交流事業）

最初となる令和 4 年度は、総務省及び外務省の後援を受け、エチオピア、モーリシャス、タンザニア（本土、ザンジバル）及びザンビアの国家統計職員（計 5 名）を招聘し

て、我が国の政府統計に関し、令和5年3月7日から17日まで研修を実施した。

なお、石橋信夫記念国際交流事業及びJICA案件のエジプト中央動員統計局職員に対する第2回本邦研修事業は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により中止となった。

12 その他の受託事業

○ 一般財団法人日本ラジコン電波安全協会からの受託事業

業務内容

- ・日本ラジコン電波安全協会が実施するアンケートの調査票の作成
- ・アンケートの集計

業務期間

- ・令和4年2月～9月

13 運営に関する事項

理事会及び評議員会を以下のとおり開催した。

(1) 理事会の開催

ア. 第1回理事会

開催日：令和4年5月31日（火）

場所：ベルサール神保町 2階 RoomA

東京都千代田区西神田3-2-1住友不動産千代田ファーストビル南館

議案 ○ 令和3年度事業報告に関する件

○ 令和3年度決算報告に関する件

○ 特定費用準備金の積立に関する件

○ 令和4年度定時評議員会の開催日等に関する件

○ 定時評議員会に提出する理事候補者及び監事候補者名簿の件

報告 定款第22条第3項に基づく代表理事による職務執行状況報告

イ. 第2回理事会

開催日：令和4年6月21日（火）

場所：ベルサール神保町 2階 RoomA

東京都千代田区西神田3-2-1住友不動産千代田ファーストビル南館

議案 ○ 代表理事選任に関する件

ウ. 第3回理事会

開催日：令和5年3月20日（月）

場所：ベルサール神保町 2階 RoomA

東京都千代田区西神田3-2-1住友不動産千代田ファーストビル南館

議案 ○ 令和5年度事業計画に関する件

○ 令和5年度收支予算に関する件

- 非常勤職員就業規則、退職手当規則及び非常勤職員給与規程の一部改正に関する件

報 告 定款第 22 条第 3 項に基づく代表理事による職務執行状況報告

(2) 定時評議員会の開催

開 催 日：令和 4 年 6 月 15 日（水）

場 所：ベルサール九段 3 階 ROOM2

東京都千代田区九段北 1-8-10 住友不動産九段ビル

議 案 ○ 議長の選出の件

○ 議事録署名人の選出の件

○ 令和 3 年度事業報告に関する件

○ 令和 3 年度決算報告に関する件

○ 理事及び監事の選任に関する件

以上のとおりであるが、令和 4 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので附属明細書は作成していない。

以上